

学校名 (加西市立北条東小学校)

実施日：第1回 6月7日(2校時) 第2回 7月5日(2校時) 第3回 9月27日(2校時) 第4回 10月18日(3校時) 第5回 11月15日(2・3校時)	
領域：総合的な学習の時間	
取組名：赤ちゃん先生	
対象：4年生	実施場所：学童棟
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ ママ講師の話の聞いたり、赤ちゃんと触れ合ったりする中で、自分にも友だちにも大切に産み育てられた命があることに気づき、自分も友だちも大切にしようとする態度を養う。 ・ 話すことのできない赤ちゃんの感情を読み取ろうとする体験から、相手意識を育てる。 ・ 今まで大切に育ててくれた保護者や周囲の人に感謝の気持ちをもたせる。 ・ 赤ちゃんに語りかける言葉から、相手を大切にしたい言葉づかいについて考えさせる。 	
イ 指導内容(指導略案)や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回「赤ちゃんと自分をくらべてみよう」 赤ちゃんと身体の大きさ比べをすることで、自分の成長を自覚し、今まで周囲の人々に愛情を持って育てられたことを知らせる。 ○ 第2回「赤ちゃんとお話しよう～ふわふわ言葉とちくちく言葉～」 赤ちゃんへのふわふわ言葉は、使った本人も幸せな気持ちになる。言葉は、一言で相手を幸せにも不幸にもする。また、自分の言葉は、使った本人にも返ってくることを知らせる。 ○ 第3回「泣いてもいいんだよ」 表情や泣くことで表現する赤ちゃんの感情を読み取ろうとするうちに、他人のことを思いやる心やコミュニケーションの力をつける。泣くことは、ひとつの表現方法だということを知らせる。 ○ 第4回「いのちの力」 自分が誕生した時の家族の思いに触れさせる。誰にもかけがえのない命があることやその命を思い、大切に育てている家族や周りの人たちがいることに気づかせる。 ○ 第5回「みんなのみらい」 赤ちゃんと触れ合ってきた半年間をふり返り、学んだことを伝え合わせる。最後に、いろいろなことを教えてもらったママ講師と赤ちゃん先生に感謝の気持ちを伝える場を設定する。 	
ウ 連携先 NPO法人「ママの働き方応援隊」、本校PTA役員	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ インストラクターに本校の人権教育のねらいを伝え、共通理解する。 ・ インストラクターと事前打ち合わせをし、活動の目的や方法について話し合う。 ・ 事後のふり返りをインストラクターと担任とで行い、次回に活かす。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任外の教職員も加わり、多くの目で児童の様子を観察する。 ・ 赤ちゃん先生実施日には、PTAの役員にも声をかけ、様子を見ていただきながら、活動の趣旨や人権教育について理解をしていただく。 ・ ふり返りカードを書かせ、学んだ内容を文章でまとめさせる。 ・ 班毎に学んだことを出し合って共有させ、新聞にまとめさせる。 ・ 赤ちゃん先生終了後には、活動報告をオープンスクールで保護者や地域の方に公開する。 	

カ 評価の方法

- ・ 児童の行動や発言内容を観察する。
- ・ 個人で事後のふり返り（ワークシート）を書かせる。
- ・ 班毎に、赤ちゃん先生から学んだことを模造紙にまとめ、活動をふり返らせる。
- ・ インストラクターやママ講師からの感想をいただく。

キ 成果

- ・ 出会う前に、自分の体調に気をつけたり、手洗いをして身の清潔を考えたりするなど、赤ちゃんに出会うための心配りをすることができた。
- ・ 毎回、同じ赤ちゃんと出会うことによって、その子の成長を実感して喜び、より愛着を感じることもできた。
- ・ 小さな赤ちゃんに触れる時、優しい笑顔や言葉かけをする児童の姿が見られた。
- ・ ひとつの命が、ママや家族によって大切に守られていることを感じることもできた。自分にもこんな時期があり、大切に育てられてきたことを実感することができた。
- ・ 赤ちゃんとは身体比べをする中で、自分の成長を感じることもできた。
- ・ 赤ちゃんに対して、ふわふわ言葉をかけている自分自身に気づくことができた。言葉の持つ力のすばらしさや怖さの両面に気づき、普段の自分の言葉づかいをふり返らせることができた。また、友だちに対する言葉づかいが、少し優しくなった児童もいた。
- ・ 普段の学校生活では、ともすれば乱暴な言葉使いをする児童や自己表現の苦手な児童が、赤ちゃんを前に笑顔になり、上手にあやす姿が見られた。
- ・ 短時間の子守体験の中で、赤ちゃんの泣く意図を考え、自分達ができることを一生懸命にする姿が見られた。また、泣くことはひとつの表現で、だめなことでないことが分かり、周りにいる者は、なぜ泣いているのかを分かろうとすることが大切であることを知ることができた。
- ・ どの子にも母親が命がけで産んでくれた大切な命があることが分かった。妊娠出産時の話を聞く中で、母親や家族の子どもを何より大切に思う気持ちに触れ、命の大切さや愛されている自分の存在に気づく貴重な機会となった。

ク 課題

- ・ 費用の面でバックアップが必要である。
- ・ 衛生面での配慮が必要であり、当日の朝に予定が変更される場合もある。
- ・ 言葉づかいについては、赤ちゃん先生の場面だけでなく、日常生活で友だちに対しても正しく使えるように、意識を持続させていきたい。
- ・ 家庭の事情により、配慮を要する児童がいることを頭に置いておく必要がある。